



令和8年  
3月

学校だより  
心ゆたかに かしく たくましく  
～ 自律・感謝～

さいたま市立大砂土東小学校  
048(684)8003  
令和8年2月27日発行

## 子どものうそ

校長 石川顕一



▲ 卒業生と5年生の交流  
(お別れ球技会)

寒さが一段落し、ようやく春を実感できる季節となりました。一方で、体調不良を訴える子どもや教職員は減らないことが心配です。今月も、子どもたちの健康第一に教育活動を進めてまいります。引き続き日常の健康管理と学級閉鎖への対応、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

学校では子ども同士のトラブルがよく起こります。トラブルの内容によっては、担任がその時の心情や背景・理由等について聴き取りを行います。子どもから聴き取りをした経験は、ご家庭でもあることでしょう。ところが、時に遅々として聴き取りが進まないことがあります。それは、聴き取りの中うそが紛れ込んでいるからです。

さて、子どもがうそをつくその背景には、①叱られたくない(自己防衛)、②注目されたい(注目欲求)、③空想と現実の区別が曖昧等の心理が働いているようです。

具体的には、

### ① 自己防衛

失敗や困難を避けたい、叱られたくないという気持ちからうそをつきます。

### ② 注目欲求

話を聞いてほしいという思いから話を誇張します。時には体調不良を訴えることもあります。

### ③ 空想と現実の混同

幼い子どもは空想を現実のように話すことがあります。本人はうそをついている自覚はありません。

### ④ 表現力の不足

状況をうまく説明できず、結果としてうそのように聞こえる発言をしてしまいます。

私たち大人は、このような心理的背景があることを理解した上で、子どもに接したいものです。また日頃から「厳しすぎるしつけ・教育」は、叱られたくない一心からうそをつくことにつながりかねません。子どもがうそをついた時は、大人は「頭ごなしに叱らず」「無理に謝らせず」「執拗に問い詰めることなく」、子どもがどのような心理状態でうそをついたのかを冷静に分析すべきでしょう。子どもがうそをつかなければならなかった環境、正直に話せる環境、心理的に安全な環境を用意してあげられているか、大人が自身を見直す機会なのです。(もちろん「うそがいけない理由を伝える」「うそをつかれて悲しかった」など親の正直な気持ちは適宜伝えますが。)

最後に、皆様方には、登下校時の見守り、学習環境の整備、教育活動の支援など、数々のご支援ご協力をいただきました。おかげ様で、学校教育に集中することができましたこと、厚く御礼申し上げます。